



地域を育み 大陸をつなぐ

国際ロータリー第2660地区

吹田西ロータリークラブ ウィークリー 2010-2011

■創立 1980.6.12

事務所 ☎564-0051 吹田市豊津町9番40号 江坂東急ビル1F
 ☎(06)6338-0832 FAX(06)6338-0020
 URL <http://www.suita-west-rc.org>
 例会場 新大阪江坂東急イン
 ☎564-0051 吹田市豊津町9番6号 ☎(06)6338-0109
 例会日 毎月曜日 18:00~19:00
 役員 会長：村井正雄 幹事：渋谷清明 会報委員長：佐藤洋一

4

つつのテスト ●真実かどうか ●みんなに公平か ●好意と友情を深めるか ●みんなのためになるかどうか

第1402回例会 平成23年2月7日
 卓話「ひとり言」 榎谷パスト会長
 今週の歌「君が代」「奉仕の理想」

先週内容

会長挨拶 村井会長



寒い日が続いている日々ですが、今日はサッカー日本代表が優勝したことよりも嬉しい、御二人（西村、枚本両会員）の新入会員をお迎えする日になりました。御両名、及び増強委員の皆さま、本当に有難う御座居ました。

1月25日、GSEの会議で荻田会員が出席され、3月27日~4月3日のスリランカの女性の受入が決定しました。皆様の御協力をお願い致します。

2月5日（土）はIMです。会員の出席も宜敷く御願致します。

今日の一句

俳句同好会
小林会員（山牛）



平成23年2月7日
 春炬燵男腕組みして眠る
 中村与謝男

世界理解月間

次週 第1403回 例会予告 平成23年2月14日

卓話「仕事の評価」 河邊パスト会長
 Weekly No. 1402は佐藤委員長が担当しました。
 Weekly No. 1403は伊藤副委員長が担当の予定です。
 （本日の原稿をお渡し下さい）

幹事報告 渋谷幹事

- 1.西村さん、枚本さん、入会おめでとうございます。よろしくお願致します。
- 2.今週の土曜日は阪急エキスポパークでのIMの予定です。13:30受付の14:00開始です。遅れないように！
- 3.メールBOXにロータリーの友2月号と(株)クマヒラ様から送られてきてます、「抜萃のつづり」を入れさせて頂いてます。どうぞ活用下さい。
- 4.本日例会終了後、第9回の理事会を開催致します。理事、役員及び出席予定の会員は宜しくお願い致します。

ゲスト 榎原委員

新入会員ご夫人 西村 香代子様
 新入会員ご夫人 枚本 恵子様

出席報告 高木委員長

- 会員数 50名 ●来客 2名
- 出席会員数 43名 ●本日の出席率 89.58%
- 12月17日の出席率（メーキャップを含む）100%

誕生御祝 - 2月

会員		
昭和10年	2月1日	小川会員
昭和20年	2月3日	永田会員
昭和14年	2月3日	吉田会員
昭和35年	2月9日	勝 会員
昭和22年	2月10日	村井会員
昭和13年	2月11日	瀧川会員
昭和17年	2月13日	右松会員
以上7名		

会員夫人		
2月4日		木田会員夫人
2月7日		岡 会員夫人
2月7日		枚本会員夫人
2月10日		新井会員夫人
2月13日		元田会員夫人
2月28日		小川会員夫人
以上6名		

新入会員紹介



○姓 名 … 西村元秀

○姓 名 … 杵本日出夫

社会奉仕委員会 木田副委員長

2月1日(火)、あす吹田西RC担当のクリーンデーです。東急インホテル前7:30集合です。大変寒さ厳しい折、防寒服で大勢の参加お待ちしております。

米山記念奨学会委員会 紙谷委員長

確定申告用領収証について

特別寄付免税申告用領収書をメールBOXに入れましたので確定申告の際にご利用下さい。

ニコニコ箱 勝副SAA

- ◆橋本(徹)会員
西村様、杵本様をお迎えして。橋本土
地家屋調査士事務所を開設致しました。
- ◆阪本会員
西村氏、杵本氏をお迎えして。
- ◆榎原会員
杵本様、西村様入会を祝して。
- ◆家村会員
杵本様、西村様、入会お目でござ
います。
- ◆鈴木会員
拙い卓話ですが宜しく。
- ◆青木会員
宮川理事長、スタディグループのセミ
ナー会場の件では、お世話になりま
して本当にありがとうございました。
- ◆仲辻会員
阿部会員のホットプラッツ江坂ガス
センターにお世話になりました。
- ◆河邊会員
橋本徹也様、土地家屋調査士資格取得
お目出どうぞ座居ます。

本日のニコニコ箱	32,000円
累計のニコニコ箱	626,336円

本日の1コインニコニコ箱	342円
累計の1コインニコニコ箱	27,408円

卓話

「日本昔噺 第四話 伊勢神宮の神様」

鈴木パスト会長



天照大神

今回は伊勢神宮に祭られている天照大神を中心としてお話をさせていただきます。

■敬意の念

私なりに歴史の事実を見つめ、神話と現実との両面からお話をさせていただきます。内容にいささか唐突に思われるところがあるかもしれませんが伊勢神宮の尊厳を損なう考えは毛頭ありませんし、皇室を敬う気持ちには変わりありませんので誤解のないようにお聞きいただきたいと思います。

■NHKスペシャル

又、先週の日曜日にNHKスペシャルで奈良県の纏向遺跡の放映がありました。その中で邪馬台国がヤマト地方か、北九州かの論争や、又、卑弥呼は何処に居たのか古代史の謎解きの話がありました。この放送は卑弥呼が何処にいたのかが一番のテーマでしたが本日の話しはそのことにも関係が有りますので楽しみにお聞きください。

■皇祖神

皆様のほとんどの方は伊勢神宮には何回もお参りに行っておられると思います。そして内宮に祀られている天照大神が皇室のご先祖で有り、我々の祖先の代表でもあるので、敬う気持ちでお参りされていると思います。

■古事記の内容

そのことは古事記や日本書紀に「高天原に居られた天照大神がご自分の孫の瓊瓊杵尊を瑞穂の国の日向の高千穂の峯に降臨させて、その子孫の神武天皇が日向から東征を開始して大和王朝の初代天皇となられた」と書かれているからです。そして皆様も皇室が伊勢神宮をおつくりになり、天照大神を皇祖神としてお祀りされていると思っておられます。

1. 天照大神は卑弥呼

しかし「この天照大神は卑弥呼ですよ」と私が話をしますと「ちょっと待て、信じられない」と思う方もおられると思います。又「そのような話しは聞いた事はあるが信じられない」と思われている方もいらっしゃると思います。それではこれから天照大神と卑弥呼が相似点を二三お話します。

■記紀に八咫の鏡

古事記によりますと天照大神は瓊瓊杵尊を降臨させるときに八咫の鏡を手渡し『この鏡は専ら我が御魂として、吾が前を拝くが如くいつき奉れ』として、草薙の剣と八尺の勾玉の三種の神器を授けています。また、日本書紀には『天照大神、瓊瓊杵尊に八尺の瓊の勾玉、八咫鏡、草薙剣の三種の宝物を賜ふ』と記されています。

■三種の神器

この八咫鏡が伊勢神宮で天照大神の神器として祀られています。草薙剣は熱田神宮に、勾玉は宮中の賢所に祀られています。

■八咫鏡

この八咫鏡とはどんな鏡であるか現代の人で見た人はほとんど居ません。伊勢神宮では明治天皇がご覧になったとの話がありますがその後は宮司でも見ることは出来ないとのこと。まず、八咫鏡の謂れですが「八咫」との飾り言葉はどのような意味なのか、これから話をします。

■八咫

「咫」とは中国の漢の時代(BC200-AC200)の長さを表す尺度で、驚く事にこの時代に直径一尺の円周を四咫と決めていたようです。八咫とは直径二尺の円周を表します。すなわち八咫の鏡の直径は二尺ということ。すなわち八咫の鏡の直径は二尺ということ。すなわち八咫の鏡の直径は二尺ということ。すなわち八咫の鏡の直径は二尺ということ。

■センチに直す

漢時代の一尺は、23.3cmですので二尺は46.6cmになります。この約46cmの鏡が伊勢神宮に祀られているのです。

■八咫鏡の確認

この伊勢神宮の八咫鏡が約46cmで有ったと思われるのは伊勢神宮に伝わる皇大神宮儀式帳に御樋代の寸法は外形二尺、内径一尺六寸、深さ八寸三分と記されています。即ち内寸は50cm弱になります。この事から八咫の鏡の大体の大きさは約46cmで整合します。

■卑弥呼との関係

次に卑弥呼はヤマトに居たのか、北九州に居たのかという事から話をします。しかし、この検証は難しく江戸時代から色々言われており、最近では東大と京大までをも巻き込んで論争が続いて居ります。私の結論は北九州説です。これは以前皆様にお配りした私の拙書に書いてありますが改めて少し説明いたします。

■北九州説の理由

古代のわが国の事が詳しく書かれている最初の書物は中国の三国志の魏志倭人伝であります。そこに239年に倭の女王・卑弥呼が魏の国に朝貢し、それに応えて240年に魏の明帝が使者・梯儻に倭国王の金印と贈り物を持たせて倭国に行かせ、北九州の伊都国(福岡県)で卑弥呼に金印と詔書を渡したと書かれていて、決してヤマトまで行ったとは書かれていません。皇帝の使者が国書以上に大事な金印や詔書を正使者本人が北九州の伊都国に残ったまま、卑弥呼の代理の

者にヤマトまで託す事は勅命違反で絶対に出来ない事があります。魏志倭人伝に明記されているように北九州の伊都国で金印と詔書を卑弥呼に渡しているのが卑弥呼が北九州に居たと確信しています。他にもまだまだ論証がありますが今日は時間が無いので省きます。

■平原遺跡・卑弥呼の墓??

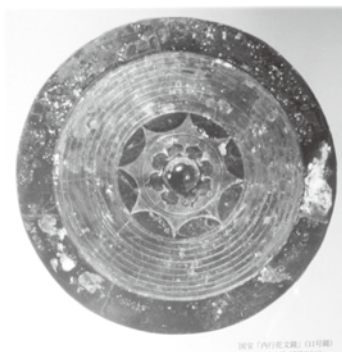
1965年に発見された伊都国(福岡県)の平原古墳が卑弥呼の墓ではないかと言われています。この古墳は200-250年頃の築造のものだと言われており、埋葬方式は今までの甕棺埋葬ではなく中国式の竹割式木棺で埋葬しています。その一号墳からは鏡が40面と勾玉やガラス製管玉など、女性の装身具が多数発見されており武具としては太刀が一振りしか発見されていないのでこの埋葬者は女性の可能性が高く、卑弥呼の墓ではないかと言われています。(三号墳から殉死16人が見つかっています)



平原古墳

■発見された鏡

この卑弥呼の墓とも思われる墳墓から前漢鏡2面、後漢鏡32面、国産の超大型の46.5cmの鏡が四面と30cmの内行花文鏡が発見され、この大型の内行花文鏡が八咫の鏡と同じ大きさなので世間は騒然となりました。



内行花文鏡

■同じ可能性

伊勢神宮に奉安されている八咫鏡の文様ですが誰も見たことはありませんが、伊勢神宮に伝わる古伝を執筆した神道五部書によると『八葉』と記載されているそうです。この発見された内行花文鏡も八葉であるので伊勢神宮の八咫鏡と文様と大きさの二点が合致しました。(正確には八頭花崎八葉形也と記載されています)

■八咫鏡が合致

長くなりましたが伊勢神宮に天照大神の唯一の神宝として祀られている八咫鏡は卑弥呼の鏡と合致したことで天照大神と卑弥呼が同じである可能性を高めたこと記憶してください。

2. 神話の創作

卑弥呼と天照大神とのかかわりについて話をします。

■記紀の神話

天照大神は古事記や日本書紀に書かれているようにご自分の孫の瓊瓊杵尊を瑞穂の国に降臨させて、その瓊瓊杵尊の曾孫の神武が日向からヤマトに東征し、長髓彦を破り初代天皇になったと書かれていますがこの神話がどのような経緯で書かれたのかを説明します。

■古事記

まず古事記は天武(40)の時(680年頃)に各氏族が持っている記録を提出させて太安万侶が編纂し712年、元明(42)のときに完成しました。

■日本書紀

同じく日本書紀も天武(40)が川島皇子や忍壁皇子に命じて、作らせた。しかし、内容は古事記と違って中国の歴史を意識しすぎ年代を引き伸ばして国威を示そうとした事で史実と違う内容になっています。720年の元正(43)のときに完成しました。

■遣唐使が魏志倭人伝を持ち帰る

この記紀の編纂中に第8回目(702-4)の遣唐使粟田真人が三国志の魏志倭人伝を持ち帰り、魏の時代(220-265)に卑弥呼という女王や台与という後継者が倭国にいたことを初めて知ります。これで完成間際の記紀は大幅に修正され、女王・卑弥呼を神話に登場させざるを得なくなりました。しかも、年代を中国に負けず倭国の歴史も古くから続いていた様に誇張し、初代天皇の神武を紀元前660年として卑弥呼を神代にすえて天孫降臨の神話が作られた。

■皇祖神

その結果、卑弥呼が天照大神に祭り上げられて皇祖神になりました。

3. 時代検証

尚、もう少し別の角度から時代検証をしてみます。

■神武の即位

神武天皇が西暦何年に即位したのか。これは記紀によるとBC660年としていますが、この頃は日本の縄文時代で現実にはありえない話であります。

■辛酉讖緯説

それは先にも述べたように中国の長い歴史に負けないように、日本書紀の編者がその当時、中国で流行していた讖緯(シンイ)説を取り入れて辛酉(シンユウ)の年から21還暦目に世の中が変わる大革命が起こるとい説にのっかって、推古9年から1260年さかのぼった年を神武天皇の即位の年としました。

■七支刀

現在でわかっている実年代を示す古い遺物としては、石上神宮に祭られている百濟王から仲哀天皇(14)がもらったとされる七支刀の61文字の銘文に「泰和四年(369年)百濟王世子奇が倭王旨の為に造る」と書かれているのが最古のものです。これを元に仲哀天皇(14)から神武までの本当の各天皇の在位期間を計算して神武の即位の年代を計算します。



石上神宮と七支刀

■天皇の特定

仲哀(14)天皇から神武天皇まで本当に実在した天皇は何人であるかを確認すると実在を認められている天皇は神武以下は崇神(10)・垂仁(11)・景行(12)・成務(13)です。神武から崇神(10)までの綏靖(2)(スイセイ)から開化(9)までの八代の天皇は架空の天皇を作って時代の延長を図ったものとし、これを闕史八代と言い歴史家は実在の天皇から外しているので神武から成務(13)までの五代とします。

■在位の計算

それでは、その当時の天皇の在位期間は何年ぐらいであったのかを歴史の資料から調べると雄略天皇(21)までは在位期間が60年から100年と、とんでもないでたらめな数字であるので雄略(21)から崇峻(32)までの在位期間143年を12代で割ると平均在位が12年と成ります。

■神武即位

そうすると神武から成務(13)まで五代の天皇がおられ、その在位期間が12年平均とすると五代×12年間で、この間の在位合計は60年間となります。そこで七支刀の制作年代369年から60年を引くと309年となります。この309年に仲哀天皇(14)が即位してから何年後に七支刀をもらったか判ればそれを加算すると神武の即位の年が推定できます。しかし残念ながら仲哀天皇(14)が即位後、何年にももらった年が定かでないので神武の即位の年を310年頃と仮定します。

■年代の整合性

卑弥呼が247年に亡くなり、二代目女王の台与が290年頃まで王位を継承し、その後記紀に書かれているように饒速日命が20年ほど王位を継承しているとすれば、初代天皇の神武の即位が310年で問題なく繋がります。即ち、卑弥呼が皇祖神として祀られる事は年代的につながり不自然ではありません。

4. 傍 証

天照大神が卑弥呼であるための傍証をもう一つ示します。

■外宮

皆さんは伊勢神宮に参拝される時には外宮にお参りされていますがほとんどの方は内宮だけで外宮にはお参りされません。時間が無い事も理由ですが外宮にどの様な神様がお祭りされているのかもご存じない方が多いからです。

■豊受大神

外宮には豊受大神が祀られていますがこの神様は卑弥呼の二代目の女王として君臨していた台与のことです。それではいつ頃から、何故祀られるようになったのかお話しします。

■招聘理由

AC500年頃、雄略天皇(21)の夢枕に天照大神がおたちになり。「一人ではさびしいので丹波にいる豊受大神をこの伊勢の地に呼んでほしい」と雄略天皇に告げられたので、雄略22年に丹波の豊受大神社から伊勢の地にお迎えしたと延暦(804年)時代に編纂された外宮の社伝「止由気宮儀式帳」に書かれています。

■外宮の役目

そして豊受大神の外宮では毎日、朝と夕方に天照大神に食事をささげる神事が行われています。そして現在では豊受大神は豊穰の神様としてあがめられています。

■丹波にいた疑問

それでは北九州に居た台与がなぜ丹波に豊受大神として祀られていたのか、という疑問が出てきます。

■その理由

245年に卑弥呼から帯方郡に南の狗奴国との戦いの援軍を要請していたが、その当時の帯方郡は半島の混乱に巻き込まれ直ぐに援軍を出すことができなかった。248年に卑弥呼に呼ばれていた魏の軍事顧問団が張政に率いられて倭国に来た時には既に卑弥呼が亡くなっており、クニグニの男王が倭国の跡目を争っていたが張政は部下の軍事力で男王たちを退けて卑弥呼の13才の養女・台与を後継者として擁立して台与政権を打ち立てました。

■晋の建国

265年に司馬炎が魏から王権を篡奪して晋を作ったのを知った張政は266年に倭国を立って帰国します。この時に台与は魏の武帝に使者を送り朝貢するのですが武帝から粗末な扱いを受けて晋との関係も薄れました。

■豊の国

18年間も魏の軍事顧問の後ろ盾で政治を行っていた台与政権は張政らの帰国後は北九州のクニグニを統制することが難しく、主管地を大分県宇佐方面に移しました。その後、この地方は豊の国と呼ばれるようになりました。

■宇佐神宮

この豊の国にある宇佐神宮には三神が祀られています。比売大神が真ん中で左右に応神天皇(15代)と神功皇后が祀られています。この真ん中に祀られている比売大神は卑弥呼か台与かと言われ、宇佐神社の創建から比売命が祀られており、後世に応神天皇と神功皇后が左右に祀られるように成りました。

■統治不能

しかし、この豊の国にも新たに朝鮮半島から流入してくる新しい渡来人の勢力が伸びてきて、この地でも政を続けるのに不安を感じ、ついに卑弥呼の同族のいるヤマト地方に一族郎党を連れて船で日本海を東行しました。

■丹波到着

台与たちは日本海を東行し丹後半島にたどり着きました。船でたどり着いた証拠に、台与を祀る豊受大神社は岡の上に在るがその鎮座している場所を船岡山と呼び、乗ってきた船が流されないように船をつないだと言われる「つなぎ岩」が今でもその地方で祀られています。この船岡山と言う呼ばれ方や、つなぎ石の謂れなどは台与が船でこの地にたどり着いた事の名残です。

■丹波・丹後の豊受大神社

この他にも丹後の元伊勢神社と言われている籠神社の後ろの奥宮に豊受大神の磐座が厳かに祀られています。このことで豊の国から東遷した台与はしばらくこの丹波・丹後地方に留まり、その後ヤマトに東遷したと思われま。しかし、この地で台与はいつまでも豊受大神として崇められ祀られていました。

■台与が東遷した理由

如何に北九州で政がやりにくく、身に危険が迫ってきているとは言え、未知の土地のヤマトに向かって台与が何故 東遷したのか、疑問に思う人が多いと思います。

■ヤマトの情報

それはヤマト地方には卑弥呼や台与と同じ宗教を信じる集団がいて、同胞はその地で先住の人達とも仲良く平和に暮らしているとの情報を入手しており、そこに行けば台与たちも安泰であると確証を得て東遷を開始したと思われま。

■ヤマトの土器

ヤマトとの連絡が充分取れていたという証拠の一つとして、台与達の本拠地の福岡市西新町の土器を調べたところ、地元の土器が63%、ヤマト系土器25%、出雲系土器9%、伽耶系土器2%、吉備系土器1%でたと田崎博之氏が「古墳時代初頭前後の筑前地方」に記載されています。25%もヤマト系の土器があるということは如何にヤマトとの交流が多く、ヤマトの情報が充分、台与にもたらせていた事が判ります。又、反対に台与のこともヤマトに届いてお互いに充分連絡を取り合っの東行と思われま。

■卑弥呼の自出と黄巾の乱

そもそも、卑弥呼たちの一族とヤマトの地方の一族との共通点とは言いますとそれは中国河北省・山東省で神仙思想を信じ古道教の一種と云われる巫術を行っていた集団です。彼らは184年に後漢政府の悪政に不満を持ち、教祖の張角を大将に約100万の信者が政府転覆を目標に各地で一斉に蜂起しました。これが有名な黄巾の乱です。

■曹操が活躍

しかし、後漢政府軍の曹操などに壊滅させられ、この動乱は五年で一旦終息します。この当時の戦いは凄惨を極め戦いに負けると男は殺され女は奴隷にされました。

■朝鮮の巫術

惨殺を恐れた部族は一族郎党を引き連れて朝鮮半島に逃げ込みました。それ以降、朝鮮半島にも巫術が広がり、それが現代にまで民間宗教として伝わり韓国の巫(ムダン)として残っています。

■倭国に渡来

その又一部族は倭国に渡来しました。卑弥呼の一族は北九州に渡来したが、大部分の逃避者は後漢政府と親交の有る北九州を避けて若狭湾方面に渡来しました。

■伊勢遺跡

その事は琵琶湖東岸の現在の栗東市近辺にその痕跡を残しています。1980年に発見された二世紀後半の伊勢遺跡は周りの弥生式集落とは異なり神殿造りの建物や祭殿が立ち並んでいて、弥生集落のような農耕を主としていた痕跡が無く祭器と思われるものが発見されています。

■下鈎遺跡・下長遺跡

伊勢遺跡から約2kmほど離れたところに、同時代の下鈎遺跡からも二つの棟持ち柱の大型建物が発見され、そこからも儀仗が発見されています。同じような遺跡として、近くに下長遺跡も発見されており、この地方には190年頃に多くの宗教集団が流入してきたという証拠でもあります。

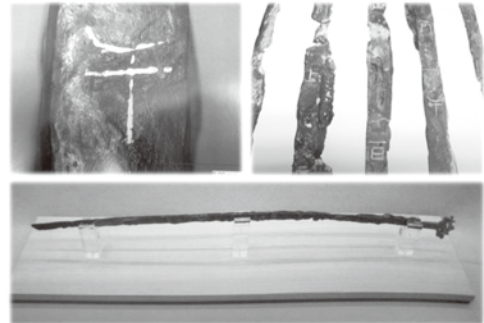
■纏向遺跡

しかし琵琶湖東岸でもまだ安住の地ではないと、より安全な場所を求めて、大部分の連中は南下をし山城を通過して、現在の天理市の近くに到着し、纏向に集落を築きました。これが纏向遺跡の始まりで、この遺跡から神殿跡や祭祀に使用した仮面とか、祭祀に使用した桃の種が多数発見されています。

■金象嵌太刀

しかし、これら纏向に来た最初の連中が、黄巾の乱の逃避者と言い切れるのか、という事が問題です。1961年、その確たる証拠が近くの東大寺

山古墳(天理市・五世紀頃築造)から発見された金象嵌太刀の銘文によってすべて判明しました。その銘文に「中平〇〇」と年代が明記されておりこの年代は184-189年で黄巾の乱の時代に大陸で作られた太刀であるということがわかります。



金象嵌太刀

■銘文

中平〇〇 五月丙午 造作文刀 百鍊清鋤
上應星宿 下辟不祥

上は星宿に応じ、下は不祥を辟ける。天上では星座の神々のお役に立ち、地上では災いを払います。

■守り刀

これは神仙思想の部族長が神を敬う文言を刻んだ金象嵌入りの太刀を造らせ、その守り刀を大陸から後生大事に倭国の纏向まで持ち込んできたものと思われます。そして、その子孫達はこれを伝世に何代も受け継がせ、そして五世紀の後継者が亡くなった時にこの守り刀を古墳に埋葬したものと思われます。

■東遷の理由

この銘文入りの刀が発見されたことで纏向に来ていた宗教部族は黄巾の乱の逃避者で卑弥呼一族と同じである事から台与は北九州からこのヤマトに東遷することを決意したものと思われます。

俄かに信じがたい話とは思いますが、八咫の鏡と卑弥呼の鏡、卑弥呼と台与と饒速日命と神武天皇との年代的關係、そして外宮に台与までが祀られていることなどから卑弥呼が皇祖神として祀られていてもおかしくないと思っています。しかし この事は伊勢神宮を冒瀆することではなく歴史的事実を積み上げてこの結論に至ったことをご理解いただきたい。

■追記

古代史に興味がある新しく入会された方で「ヤマト王朝創成のなぞ」の拙書をご希望の方がおられましたら事務局までご連絡ください。後日贈呈させていただきます。